

【配付資料】

次第

委員名簿

座席表

(資料1) 第2回検討会意見対応表

(資料2) (仮称) ちよだエコセンターの機能(環境拠点・ZEB)

(資料3) (仮称) ちよだエコセンターの施設整備のイメージ

(資料4) (仮称) ちよだエコセンターの整備候補地の条件

(資料5) (仮称) ちよだエコセンターの整備手法・運営手法

【議事要旨】

[開会]

第2回検討会での意見に対する対応案

◇事務局(担当)

資料1に基づき説明

議題(1) エコセンターの機能(環境拠点・ZEB)について

◇事務局(担当)

資料2に基づき説明

◇事務局(夏目環境政策課長)

- ・これまで機能についていただいた様々なご意見は、エコセンター開設後の具体的な実施事業案として受け止めさせていただく。
- ・今後基本構想素案を作成していくにあたり、めざすべき施設の姿を言葉で表現したいと思っているので、ご意見をいただきたい。

◆崎田会長

- ・第1回検討会では皆さんに夢を語っていただき、第2回検討会では具体的な事業についてご意見をいただいた。これまでの議論を踏まえ、本日第3回検討会では再度夢を語っていただく、つまり私たちがめざしたものがきちんと反映されているかをチェックしていただきたい。
- ・「千代田区らしさ」とはどのようなところにあるか。言葉で伝えるとなるとどのようなものか、ご意見をいただきたい。

◆高口副会長

- ・「環境と食のスペース」という空間について、もう少し詳しく教えていただきたい。

◇事務局(夏目環境政策課長)

- ・前回、お茶や食事をしながら打合せができるスペースがあるとよいのご意見があった。そ

ちらを踏まえ、カフェやレストランを配置するというイメージである。調理室については、現在のところ入っていない。

◆崎田会長

- ・「環境と食のスペース」を工夫すれば、いろいろな可能性があるということをご示唆いただいた。
- ・例えば、3～4階建てのエコセンターの1階部分をすべて食のスペースにし、有機野菜を取扱ったカフェ、レストラン、パン屋などを設置することもできる。親子連れに来てもらい、カフェやレストランに行った後に、環境スペースに行ってもらってもできる。
- ・そのくらい特徴づけをすることもできる。主張するところとゆとりがあるところ、両方あってもいいのではないか。

◆窪田委員

- ・食べ物をキーワードにすると、人が集まりやすい。非常食を使ったレストランを、例えばノウハウをもった区民を巻き込んで運営するのもいいのでは。
- ・毎日同じではなく、メリハリをつけて人を呼び込むということは、すごくいい手法だと思う。

◆崎田会長

- ・備蓄物資を持ち寄りスタジオで調理するなど、食品ロス削減も見据えた場づくりもあるかもしれない。

◆村上委員

- ・千代田区の個性といえば、やはり東京駅を有している、東京の玄関としての機能である。
- ・来訪者、例えば海外から観光に来た方も環境に興味がある方がいる。エコセンターを最先端の取り組みが見られる場にする面白いのでは。
- ・区民のための施設であることは理解しているが、そのような視点も必要かと思う。

◆深須委員

- ・千代田区の魅力の1つは、大企業が集積するビジネス街が多く、最先端の取り組みを行っているところである。
- ・また、皇居を中心とした生きものの広がりがあるところも魅力の1つである。東京は、世界の発展都市と比べても空気がきれいで、生きものがたくさんいる。しかし、このことをうまくPRできていない。
- ・そういった最先端の取り組みや生きものの広がりをエコセンターで見られたら、区民も「千代田区ってすごいな」と思っていただけではないか。

◆崎田会長

- ・千代田区は大都会でありながら、生物がたくさんいるし、北の丸公園や千鳥ヶ淵公園などがある。うまく活用できたら面白い。

◆窪田委員

- ・日本の顔として、歳時記、季節の催しやイベントを取り込むのはどうか。外国の方にも興味を持ってもらえるし、もちろん日本人も取り入れられる。

◆崎田会長

- ・そういう意味でいうと、「日本の持続可能性」を見せるというのはいかがか。

- ・皇居の近くに季節によって変わるお弁当を食べながらレクチャーを受けることができるレストランがある。

◆村上委員

- ・そのお弁当は江戸時代に食べていたものを再現したものである。

◇事務局（夏目環境政策課長）

- ・エコめぐりガイドという冊子に、そのレストランの紹介がある。
- ・エコめぐりガイドは、2年に1回発行している。区や民間の環境に関わる施設を掲載しており、興味のある方に巡っていただくという趣旨のものである。

◆崎田会長

- ・これまでの議論をまとめると、キーワードは「食」「東京の顔」「持続可能性」といったところか。

◇事務局（担当）

資料2（3ページ目）に基づき説明

◇事務局（夏目環境政策課長）

- ・後程、整備候補地について条件や選定の視点についてのご意見をいただきたいと思っているが、マトリックスの説明は、エコセンターの整備にあたって、ZEBモデル施設の機能を重視するのか、環境拠点の機能を重視するのかということ、それから施設整備のタイプによっても候補地の選び方や選定の条件が異なってくるので、現時点では完全に決めきれないという点について共有をしておきたいという趣旨である。

◆高口副会長

- ・ただ今の説明は、敷地が小さい方がエネルギーを自給しやすいという説明だろう。ただし、敷地が大きい方が再エネを活用できる割合は高くなる。

議題（2）整備候補地について

◇事務局（担当）

資料3に基づき説明

◇事務局（夏目環境政策課長）

- ・ただ今の説明は、エコセンターは前回までの議論を踏まえ、複数の整備タイプが考えられるという点を共有しておきたい。
- ・ただし、整備タイプによっては、エコセンター単独での整備ではないため、スケジュールがコントロールできない場合もある。
- ・どの整備タイプを選択するかは、基本構想策定後に区で検討することになるが、仮に時間がかかるパターンを選択した場合には、ソフト事業を先行させるといったことも考えられる。この点は前回もお話があった。
- ・裏面については、複合機能を例示している。前回までのご意見を参考に、エコセンターは単独ではなく、他の機能と複合・連携することで、何らかの問題を同時解決したり、副産物を

生みだしたり、活動の活発化や集客力の向上が期待できるとのイメージを作成した。

◇事務局（担当）

資料4に基づき説明

◇事務局（夏目環境政策課長）

- ・エコセンターの機能を最大限発揮するために望ましい整備候補地の条件や選定の視点について、ご意見をいただきたい。
- ・整備候補地の条件に照らして、あるいは、ZEBモデル施設の視点でイメージに合う場所かどうかなど、自由にご意見をいただきたい。
- ・ただし、低未利用地については、他の行政需要や再開発の動向によっては使えなくなる可能性もある。

◆崎田会長

- ・どういうところだと対象とする方に来ていただきやすいか、ご意見をいただきたい。ただし、対象とする方もいろいろなタイプの方がいるので、どのような方を重視するかということにもつながってくるかもしれない。

◆森山委員

- ・先ほど意見のあった「東京の顔」ということを考えると、皇居や東京駅、丸の内付近をイメージするが、その辺りは土地がないので、民間とのタイアップでやっていくしかないのかなと思う。
- ・個人的には、皇居は1つの大きなシンボルでもあるし、生きものや土の話を考えて、自然との触れ合いもある皇居周辺はよい気がする。皇居周辺は鉄道のアクセスがよいので、区内からでも皆さん来やすいのではないかなと思う。ただ、場所がない。

◆窪田委員

- ・エコ活動の一番の基礎となる住民、住んでいる人の目線を考えてほしい。
- ・千代田区は狭いので、どこでも不便ではないのだが、「ついで感」がないとわざわざエコセンターには行かないと思う。
- ・例えば、区役所に行くついで、保健所に行くついで、と考えると、やはり九段周辺がよい。

◆深須委員

- ・秋葉原や神田はどうか。

◆窪田委員

- ・住民はあまり行かないのでは。イベントなどで観光客が行くイメージがある。
- ・働いている人のことを考えると、駅から降りて少し時間があるから、エコセンターに寄ってみようかという「ついで感」が必要である。

◆村上委員

- ・私が先ほど申し上げた「東京の顔」というのは、場所のことではなく、話題性や先進性という意味での「顔」である。
- ・やはり「ついで感」は必要で、何か他の機能と一体で建設する方がいいのではないかなと思う。
- ・例えばスポーツセンターと複合すれば、そこは避難施設になると思うので、自立型エネルギー

を備えるなんてことも考えられる。民間の再開発との複合もあり得ると思う。

◆高口副会長

- ・ZEB ということを考えれば、建物への対策が重要であるから、場所というよりも中身が重要。
- ・大企業が集積しているエリアと、中小企業が集積しているエリアの真ん中に位置すると、ネットワークの結節点になってよいのではないか。

◆深須委員

- ・意外性があるところもよいとは思いますが、区民の利用のしやすさが重要かと思う。

◆崎田会長

- ・先ほどの整備候補地の条件についての議論では、皇居や東京駅周辺の「東京の顔」、区役所や保健所の近くの「ついで感」、大企業と中小企業をつなぐ「中間点」というような意見が出た。

◆高口副会長

- ・小中学校については、グラウンドの面積も入っているのか。今グラウンドになっている部分を多少なりとも残したいという話になると、建物の面積はもっと小さくなるということか。

◇事務局（保科環境まちづくり部長）

- ・グラウンドの面積も含めての敷地面積である。

◆窪田委員

- ・永田町エリアは、あまり区民が行く機会がないエリアだと思う。
- ・今後学校改築の仮校舎として使用することが決まっている場所は、その間使えないだろう。
- ・靖国通りは、千代田区のメイン通りであり、神田小川町辺りは、皆さん気軽に行きやすい場所ではないか。企業も多く、明治大学や日本大学も近くにある。

◆森山委員

- ・神田小川町辺りは、古本屋街もあるし、人の流れが非常に多い。
- ・先ほど高口副会長が言っていた大企業と中小企業の真ん中ぐらいとなると、例えば鎌倉橋付近や竹橋付近がちょうど接点になるのではないかと思う。

◆崎田会長

- ・在住の方はどの辺りに多く住んでいるのか。

◇事務局（保科環境まちづくり部長）

- ・麴町地域、特に番町周辺は住民が多い。神田地域も最近マンションが建ち始めており、和泉橋地域は人口が増えてきている。

◆崎田会長

- ・条件等を考えると、靖国通り沿い、あるいは中小ビルが集積している場所がイメージしやすい感じだろうか。

議題（3）整備手法・運営手法について

◇事務局（担当）

資料5に基づき説明

◇事務局（夏目環境政策課長）

- ・手法については、具体的な整備候補地や整備タイプが決まってから具体的な検討を行うこと

になるため、ここでは調査結果の共有とさせていただきたい。

- ・ただし、ZEB を建設する視点や、円滑な施設運営を行っていく視点で、ご意見やアドバイスをいただければありがたい。

◆高口副会長

- ・ZEB を設計できる会社は非常に限られているため、手法にこだわる必要はない。どのような手法でも入札できる会社は限られてくるため、DB でも設計・施工分離方式でやっても ZEB はできると思う。
- ・収益性がある施設だと PFI はよく聞くが、収益性が関係のない施設だと管理業務を外注しているのとほとんど変わらないので、PFI でなくてもよいのではないかと。

◇事務局（夏目環境政策課長）

- ・PFI の事例を聞くと、PFI は長いスパンの契約になるので、運用にあたって自由度が低いというデメリットがあるということは聞いたことがある。

◆森山委員

- ・ビル管理やメンテナンスの商売をしており、立場的に意見を言いにくいですが、設計施工は力のあるところにしっかりやっていただき、運営を分けることは問題ないと思う。

◆崎田会長

- ・私は指定管理を1つ請け負っており、区民や事業者の思いを集めて参加型で運営している。それでできなくはないが、最近は大きな企業が指定管理に入っているケースが多くなっている。

◆窪田委員

- ・私も友人が NPO を立ち上げ、荒川区のエコセンターの指定管理を請け負っている。私は、小物づくりの講座などでお手伝いをしている。
- ・しゃくし定規な運営をするよりは、みんなで講座を開いてというような柔軟な形で運営をした方がよいと思う。

◆高口副会長

- ・仕組みはいろいろあるけれども、どういう仕様で発注するかということが大切である。

◆崎田会長

- ・多くの区民や企業等が、自分のこととして参加できるような運営をすることが大事。
- ・汗をかきながら知恵を出し合い運営する、そういう流れが地域にできて、それを発揮する場としてエコセンターがきちんと機能すれば嬉しい。

◆村上委員

- ・出来上がってからこういう施設がよかったとならないように、設計する段階から運営する人の意見を取り込んだ方がよい。

◆崎田会長

- ・開設後施設を使用する人たちが思いを寄せられるような設計をすることが大事である。

[閉会]